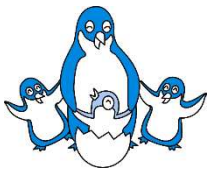


地域子育てネットワークだより

令和７年１２月

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局
650-8567　神戸市中央区下山手通 5-10-1　兵庫県県民生活部男女青少年課
E-MAIL：danjoseishounen@pref.hyogo.lg.jp　電話：(078) 341-7711（内線 2780）

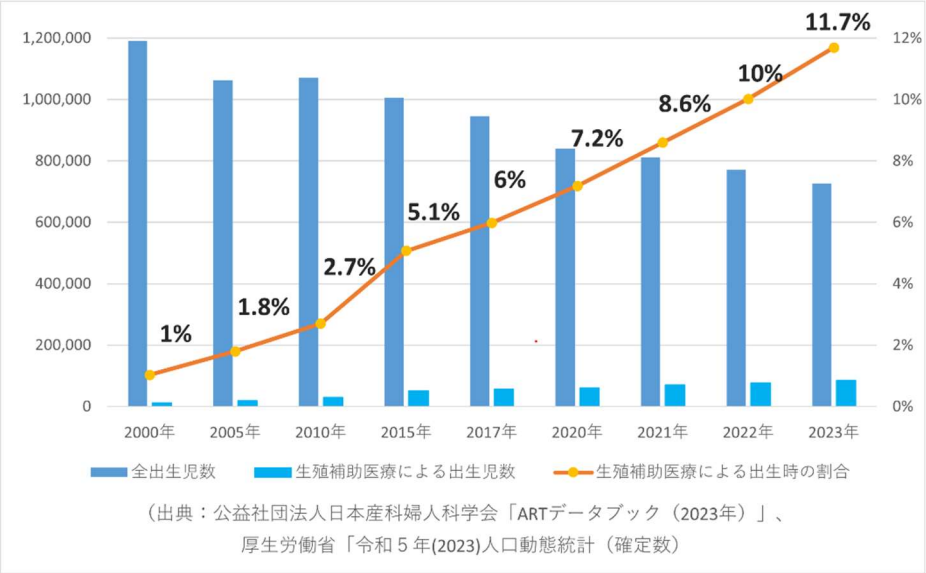
http://web.pref.hyogo.lg.jp/kk17/network-payori.html http://web.pref.hyogo.lg.jp/kk17

県では不妊症・不育症に悩む方を応援しています

不妊症等に関する支援推進条例の制定

現在、国内の夫婦の**約 4.4 組に 1 組が不妊の検査または治療を受けたことがある**と言われており、不妊症は誰もが直面する可能性があります。

また、**生殖補助医療により誕生した子どもは約９人に１人と増加傾向**にあり、令和４年４月から**体外受精などの生殖補助医療を含む不妊治療が保険適用**となるなど、全国的にも不妊治療の支援が進んでいます。



（出典：公益社団法人日本産科婦人科学会「ARTデータブック（2023年）」、厚生労働省「令和５年(2023)人口動態統計（確定数）

県では、安心して不妊治療等を受けられる環境づくりを推進するため、基本理念や関係者の役割などを定めた**全国初の条例が令和７年７月１日から施行**されました。

条例施行を追い風に、引き続き不妊症等に関する理解促進と関係施策を推進していきます。

先進医療費等助成事業のご案内

県では、不妊治療の経済的負担を軽減し、治療の選択肢を広げていくため、**保険適用外の「先進医療にかかる治療費」と「先進医療を受けるための通院交通費」を回数制限なしで助成**しています。（昨年度実績：先進医療費 3,320 件、通院交通費 1,006 件）。

今年度からは、**対象となる先進医療実施医療機関を隣接府県まで拡充**しており、例えば阪神間にお住まいの方が大阪府や京都府へ通院される場合などもご利用いただけます。

ご利用の際は、**県ホームページにて申請要件を確認**いただき、**オンライン申請**をお願いします。

また、申請に関する専用ダイヤル（078-362-9230）も設置しておりますので、お気軽にお問合せください。

兵庫県　不妊治療　で検索

子育て応援ネットの活動紹介

声かけ・見守り活動などで子育て家庭を応援する
「子育て応援ネット」の各地の取組を紹介します。

芦屋市民生児童委員協議会では地域の関係団体と連携して見守り、声掛け、パトロール等の子育て応援活動をしています。特に力を入れている活動として**“赤ちゃん応援ネット事業”**があります。**手作りのスタイを持って赤ちゃんを訪問**しています。

スタイ作りの場では、世代の違う人たちの間で子育て相談、アドバイス、様々な情報が飛び交い会話がはずみ、地域の人同士で新たな友達の輪が広がっています。可愛いスタイは届ける人と受け取る人の温かい架け橋です。

この事業は中学２年生の**トライやるウィーク**にも繋がっていて、応援団のメンバーとスタイを作り、赤ちゃん訪問をしています。今後もこの身近にある交流の場を大切にしながら、**さらに地域の輪を広げていきたいと思います。**

芦屋市子育て応援団　団長　鬼塚　紀子

まちの子育てひろばの紹介

西猪名公園子育てクラブ　代表　有本　和敏

西猪名公園管理事務所は、子ども達がさまざまな体験や関わりを通じて互いに育ちあうことを目指して、**子ども向け体験プログラム**や**異なる年代の人との交流を楽しむイベント**を運営しています。

今年度の体験プログラムは、春は**県のひろばアドバイザーによるリトミック遊び**を行いました。猛暑の６月から９月は、西猪名公園ウォーターランドにて無料親子水遊び、打ち水体験、コイン落とし、水鉄砲ゲームを楽しみました。この秋冬は植物を使った染色体験を行う予定です。

今後は地域の子育てサークルと連携し、**公園ならではの「子育ての場」**として活用を推進することを課題としています。

連載178回　インフルエンザ・ワクチンには「生ワクチン」と「不活化ワクチン」の２種類が

県立こども病院名誉院長　中村　肇

インフルエンザが流行している今、子どもたちにはぜひワクチン接種をお勧めします。ワクチンには「**生ワクチン**」と「**不活化ワクチン**」の**２種類**があります。**生ワクチン**は弱めたウイルスを使い、体の中で自然に近い形で免疫をつくるため、**効果が強く長く続くのが特徴**です。接種方法は鼻から噴射するタイプが多く、痛みが少ない点も利点です。ただし、**免疫が弱い人などは接種できない**場合があります。

一方、**不活化ワクチン**はウイルスを完全に不活化してあり、病気を起こす心配がありません。より多くの人に**安全に使えるのが特徴で、乳幼児でも接種**できます。一般的には腕に注射する形で、免疫を維持するために**２回接種**が必要になることがあります。

どちらのワクチンも「**病気にかからない力をつける**」ための大切な手段です。子ども一人ひとりの体調や状況に合わせて、最適な接種方法を選び、流行期を元気に乗り切りましょう。